

伊沢小学校
「学力向上実行プラン」

学校図書館とつながり、学びを広げる児童の育成
～主体的・対話的で深い学びの実現～

学力向上推進員 須見昇司
委員 校長 佐藤信之・ 教頭 鶴本正道・ 十川典久(教務主任)
岩佐 美恵子(研修主任) 岡田仁美(学力向上推進講師)

伊沢小学校長

佐藤信之



◎◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎・基本的な知識・技能をほとんどの児童が身につけている。 ●漢字の読み書きや語彙が十分でない子がいる。	①基礎・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ②漢字や語彙の定着を図り、日常の中で使うことができる。	①既習計算と漢字と漢字の復習小テストを繰り返す。 ②各教室に読書スペースを設け、読書に興味・関心をもたせる。低学年は、読書を通して、文字・言葉に親しみ、中・高学年は国語辞典を活用し語彙を広げる。 ③一人一台端末を各教科で効果的に活用する。 ④個に応じたワークシートや課題を与え支援をする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決まった話形に沿って、自分の考えを表現できる児童が多い。 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて読むことができる子が多い。 ●問題解決の過程で、知識や技能を生かして、数学的な見方考え方を働かせることが苦手である。 ●読むことができるが、条件に従って文章を書ける子が少ない。 ●自分の考えを持っていても、話せない児童がいる。 ●時と場に応じた話し方や、目的に沿った話し合いが苦手な児童がいる。	①目的に応じて、必要な情報を集め、自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりすることができる。 ②文章の要旨を伝えたり、問いの意図を正しく理解したりすることができる。	①個別やグループでのホワイトボードを活用した学習を積極的に取り入れ発表する機会を増やした。 ②新聞等を活用し、読み取り問題に取り組み、考えたこと等を伝え合う場を設ける。 ③学校図書館のブックリストを充実させ、課題に合った情報を選ぶ活動を取り入れる。 ④個人の端末からクラウドで使える算数のデジタル教科書を効果的に活用する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意欲的に発表する児童が多い。 ○教え合い、助け合うことができる児童が多い。 ○家庭学習の習慣がついている児童が多い。 ○学習規律が身につけてきた児童が増えてきている。 ●難しい問題に最後まで取り組むことや、疑問に思ったことを自ら調べようとする児童が増えてきているがまだ十分ではない。	①自分の思いや考えを進んで発表することができる。 ②自らの課題に根気強く取り組むことができる。 ③目的を持って、自分の力で学習を進めることができる。 ④目的に合った本を選び、本に親しんだり情報を集めたりできる。	①授業の仕方や内容の工夫、ICTの活用などで学習の意欲を高める。 ②振り返りの場の設け方を工夫する。 ③ポジティブな行動支援をさらに進める。 ④学習規律の統一を図る。 ⑤学校図書館の環境整備を行い読書の生活化を進める。 ⑥教科の単元により、作成されているパスファインダーを使い、調べ活動を充実させる。			

令和3

